

おんどり

コーキチ

のお話

作人 三好 学

91. 6. 17

僕は、コーキチと言う鶏のおんどりです

僕は今、勉くんという小学二年生の男の子に飼われていますが、僕がこの町に来たのは半年前、まだヒヨコだった頃の事でした。病弱だった君の為に名古屋のおばあちゃんから宅急便で送られて来たのが、僕とあと三羽のヒヨコだったのです。

初めのうち勉君のお家の人達は、僕達は皆めんどりだと思っていたのですが、勉君のお姉さんの敬子さんが、ある日「この鶏変だわ、もしかしたらおんどりじゃないかしら」と言ったのです。

やがて夏が来て、勉君は夏休みの絵日記に毎日僕の事を書いてくれました。その夏休みも終りに近づいた頃、名古屋のおじいちゃんが来たので

す。このおじいちゃんはお父さんのお父さんなのでお母さんは少し気を付かっています。ある朝、そのおじいちゃん

が、鶏小屋の前にお母さんを連れて来て言いました。「どうやらおんどりが出たら

「どうやらおんどりが出たらいいな、節子さん」「ええ、初めのうちは気が付きませんでした

でしたが、敬子が変わって言うって、まさかと思っていたら、朝コケローコーって歌い

だしましたのよ。お母さんは、そう答えました。おじいちゃん

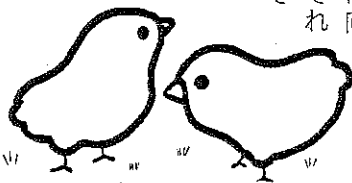
の鶏を締めてお料理をするのは誰がするのでしょうか。」「そりゃあんだだよ」おじ

いちゃんは即座に答えました。お母さんはいもいもしながら言いました。

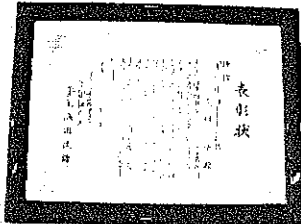
「私は、とてもそんな自信はありませんわ」お母さんのその様子を

見ておじいちゃんは、「よしよし分かったよ、次に九月に来た時してやろう、一

晩庭でバーベキューでもしたら楽しいぞ」それからしばらく向



童話入賞おめでとう



たのは三好学さんです。

学校と名のつく所には一日も行きませんでした。御両親が家庭教師をつけ勉強させて下さったおかげで、英語、ドイツ語、特に好きで得意なのはフランス語です。趣味も色々で、シャンソンを聞いたり、シナリオ



を書いたり、最近ではミニカーコレクションもしています。これからも原稿用紙五枚の童話を沢山書いて子供達を喜ばせてほしいですね。

産経新聞社企画

による第九回「ほのぼの童話館」創作童話募集三、二六三編の中、一般の部八編の内、佳作入賞をし、荣誉ある表彰状を戴